

⑤ 安全安心な暮らしを 目指した民政刷新

方谷は財政改革だけではなく、藩の治安の改善にも取り組みました。賭博や賭博を禁止したほか、盗賊の取り締まりを強化。また、凶年に備えて領内の約40カ所に貯倉を設けて米を備蓄したほか、目安箱を設置して人々の声を広く聞くように努めるなど、人々の安全安心な暮らしに大きく貢献しました。



高梁警察署 難波竜輝 署長

人々の安全安心な暮らしのために尽力した方谷さん。方谷さんの思いを受け継いで、高梁警察署と市民の皆さんと一緒に力を合わせて、安全安心な住みよいまちを作りましょう！

⑥ 西洋技術を 取り入れた軍制改革

天保11(1840)年に起こったアヘン戦争(中国がイギリスに敗れた)などの情報から、方谷は軍制改革の必要性を痛感しました。弘化4(1847)年、方谷は弟子の三島中洲とともに当時洋学が進んでいた津山藩で洋式の砲術や戦術を学びました。備中松山藩に戻ってからは、大砲を製造して洋式兵術を導入。さらに、庄屋の家の若者などを選び、銃と剣を学ばせて「里正隊」を編成しました。



里正隊は、後に長州藩の高杉晋作によって組織された身分を問わない軍組織「奇兵隊」のモデルになったと言われているんじゃ。



方谷が使用した采配(高梁方谷会蔵)

⑦ 教育改革で

人々により良い教育を！

方谷は教育の重要性を説き、領内に学問所や教諭所を設置するなど、教育の振興に努めました。また、方谷自身も、藩校「有終館」や家塾「牛籠舎」で倉敷の三島中洲や川面の進鴻溪などの優秀な人材を育成し、藩の要職へも積極的に登用しました。幕末の激動の中で、藩の存亡の危機を乗り越えることができたのも、方谷の教えを受けた門人たちの大きな働きがあったからこそでした。

めざせ！
方谷さん

中井小学校 石井栄二郎 先生

「人々の教育のためになんとかしたい！」と熱い情熱を持って働いた方谷さん。私も方谷さんのようなエネルギーを持って、子どもたちにはどんなときも明るく、積極的にチャレンジするように話しています。



方谷さんの教室



藩校有終館跡(中之町)

初代藩主板倉勝澄が創設し、4代目藩主勝政のときに藩校「有終館」として整備。天保7(1836)年に方谷が学頭(校長)に就任。



牛籠舎跡(御前町)

天保9(1838)年に方谷が子弟教育のために設立した家塾で、臥牛山の麓にあることからこの名が付いた。

西暦(年齢)	主な出来事
1877年(73歳)	小阪部で死去。西方村(現方谷園内)に埋葬される
1870年(66歳)	長瀬から小阪部(現新見市大佐)に移り、小阪部塾を開設
1868年(64歳)	西方村長瀬に長瀬塾を開設する
1862年(58歳)	板倉勝静が幕府の老中となり、その幕政顧問となる
1859年(55歳)	西方村長瀬(現中井町)に住宅を立て、移住する
1857年(53歳)	藩の借金10万両を整理し、余財10万両を残して元締役を退任
1850年(46歳)	藩政の改革に着手し、諸政策を講じる
1849年(45歳)	板倉勝静が藩主となり、元締役兼吟味役(財政再建担当)に任命される
1838年(34歳)	家塾「牛籠舎」を城下御前丁(現御前町)の邸宅に開く
1836年(32歳)	藩校「有終館」の学頭(校長)になる
1834年(30歳)	間修学し、塾頭になる
1827年(23歳)	京都へ行き、丸川松隱の旧知である寺島白鹿に学ぶ
1820年(16歳)	勉学に励む
1818年(14歳)	方谷が美家を継ぎ、家業と母・梶が死去。翌年に父・五郎吉が死去する
1809年(5歳)	新見藩の儒学者・丸川松隱の門に入る
1808年(4歳)	母・梶から文字を習う。近隣の神社に揮毫額を奉納する
1805年(1歳)	備中松山藩領阿賀郡西方村(現中井町)に生まれる

方谷の生涯年表